

平戸観光の新たな挑戦

観光課観光振興班 022-9140



▲新作かまぼこ事業の研究のため川内地区を調査する
筑紫女学園大学の皆さん

挑戦① アドベンチャーツーリズム

アドベンチャーツーリズム（AT）とは、「アクティビティ」「自然」「異文化」を組み合わせたツーリズムで、近年、世界中で人気が高まっています。平戸市では、令和3年から事業に着手し、遊漁船を利用して平戸島と生月島を周遊する「アイランドホッピング」や、世界遺産の構成資産「安満岳」のトレッキング、自動車のコーマシヤルでも多用される生月サンセットロードを活用したE-bikeでのサイクリングなど、新たな体験コンテンツを開発しました。

今後は、外国人の入国規制の緩和に伴い、外国人観光客の需要も増えていくことから、ATを活用した観光誘客を図ります。

なお、今年度は北海道で開催されるATWS（アドベンチャーツーリズムワールドサミット）に参加し、商品化を行い、更なるインバウンド誘客を目指します。



安満岳トレッキング E-bikeサイクリング アイランドホッピング

挑戦② ガストロノミーツーリズム

ガストロノミーツーリズムとは、その土地の気候風土が生んだ食材、習慣、伝統、歴史などによって育まれた食を楽しむ旅するツーリズムです。

特に平戸市では、「海の幸」や「山の幸」など、豊かな食材に恵まれ、各地域には独自の文化が根付いており、平戸観光協会を中心に、さまざまな食材を使った商品開発やモニターツアーに取り組んでいます。

昨年は、ビール発祥地の強みを活かした「フィランドビール」の開発、平戸城乾櫓でのユニークベニュー（城郭や博物館を利用したイベント）など、平戸独自のガストロノミーツーリズムを開発しているところです。

今後も、豊富な食材と歴史や文化を融合したガストロノミーツーリズムを推進し、新たな観光誘客に繋がるようなイベントの開催や旅行商品の販売を行う予定です。



フィランドビール 呈茶体験 平戸城乾櫓ユニークベニュー

歴史・雄大な自然景観、豊富な食材など、多様な観光資源に恵まれている平戸市には、これまでも多くの観光客が訪れていました。新型コロナウイルス感染症の感染症法上の取り扱いが変更され、今後は外国からの観光需要「インバウンド」の拡大が期待できます。

このインバウンド需要に対応し、数多くの観光地の中から平戸市が選ばれるためには、従来の観光資源に加え、新たな魅力づくりが求められています。

平戸市では、観光地域づくり法人（DMO）に登録された平戸観光協会を中心に、リニューアルした平戸城や城泊を核とした観光誘客対策、「平戸ならではの」体験コンテンツの創出など、国の補助を活用した観光事業に、市内各団体と連携して取り組んでいます。

6ページからは、「鄭成功生誕400周年記念事業」「アルベルゴ・デイフゾ」という新たな挑戦を紹介します。

令和5年度 平戸藩の夏めぐり ～夏まつり・花火大会編～

- 平戸港夏まつり ▶ところ 平戸港交流広場・平戸港内
▶とき 8月8日(火)午後6時30分～ ※花火打上 午後8時30分～
- 第35回大島村夏祭り花火大会 ▶ところ 的山外港埋立地
▶とき 8月12日(土)午後3時～ ※花火打上 午後8時30分～
- たびら夏祭りシーサイド花火大会 ▶ところ 田平港一帯
▶とき 8月17日(木)午後4時45分～ ※花火打上 午後8時30分～

東アジアの英雄

鄭成功 ー 生誕400周年を前にー

平戸の鄭成功関連史跡

1624年7月14日、中国人海商の鄭芝龍と、平戸川内の田川マツとの間に、平戸で生まれました。

7歳で明(当時の中国王朝)に渡り、21歳の若さで隆武帝から明王朝の国姓「朱」を賜ったことから、後に人々は彼を「国姓爺」と呼ぶようになります。

その後、オランダの武力を後ろ盾に力をつけた清朝に対し、「抗清復明」を旗印に掲げ、台湾を占拠していたオランダ人を追放して、政府を設置し開拓するなど、現在の台湾の礎を築きました。

これにより、鄭成功は「台湾独立の祖」「東アジアの英雄」として、今なお日本・中国・台湾それぞれで称えられ、鄭成功を通してつながる平戸市・南安市・台南市で連携し、顕彰しています。

令和6年度は、鄭成功の生誕から400年。当市では、関係団体と実行委員会を組織し、「鄭成功生誕400周年記念事業」に取り組みます。

平戸でたどる 英雄の足跡

川内地区に点在する、鄭成功の息吹を感じることが出来る史跡を紹介します。

◆鄭成功像

ページ右下の像の写真是、千里ヶ浜に立つ「鄭成功像」。2013年の鄭成功記念館の開館に伴い、中国・南安市から寄贈されました。

◆見聞石

千里ヶ浜南端にあるこの岩の陰で、鄭成功は生まれたとされています。

◆鄭成功山門

記念館へと続く参道の入口には山門が築かれ、参観者を歓迎します。

◆鄭成功記念館

鄭成功が幼少期を過ごした生家を再現し、功績を偲ぶ資料を展示しています。



鄭成功生誕400周年記念事業

鄭成功分霊廟整備事業

老朽化した丸山公園内の廟を建て替え移設工事を行います。

- 完成予定 令和6年4月
- 新設場所 鄭成功記念館横



新作かまぼこ事業

鄭成功生誕地である川内のソウルフード「川内かまぼこ」を、産学官で連携して新商品開発に取り組み、400周年記念事業の周知啓発・地域活性化を図ります。



今後の予定

- 令和5年度 ▶生誕400周年記念講演会
- 令和6年度 ▶特別企画展 ▶NHKのど自慢
- ▶台南物産交流・食の交流事業
- ▶学術シンポジウム「鄭成功の時代」
- ▶伝統芸能相互披露・文化交流事業
- ▶鄭成功廟オープニングセレモニー
- ▶鄭成功生誕400周年記念式典



▲交流行事の様子

▲歓迎演目(変面ショー)

鄭成功まつり

(7月13・14日)

7月14日、鄭成功廟前広場で、鄭成功生誕祭が開催されました。400周年記念事業で鄭成功廟は移設されるため、丸山公園にある現在の廟では最後の開催となりました。

を共有する仲間として、これからも手を携えていきましよう」と挨拶しました。

また、前日の13日には前夜祭と川内かまぼこフェスタが同時開催され、台湾からの訪問団の皆さんも参加しました。

ステージイベントでは、子どもジャンガラやダンス、変面ショーなどが披露され、会場は熱気に包まれました。



1_鄭成功生誕祭で挨拶する陳銘俊処長 / 2_前夜祭と同時開催の川内かまぼこフェスタの様子 / 3_前夜祭ステージでの「子どもジャンガラ」の披露

スタートアップ認証自治体としての出発

アルベルゴ・ディフーズタウンとして本格的に推進するために、あらためて、行政と地元の皆さんで「平戸の魅力」を見つめていきます。

このプロセスは、ゲストに対する“おもてなし”の質の向上と同時に、地元の皆さんの“郷土愛”の再生にもつながるものです。

Albergo Diffuso Town Hirado アルベルゴ・ディフーズタウン平戸 ～世界に誇れる地域ホテルのおもてなし～

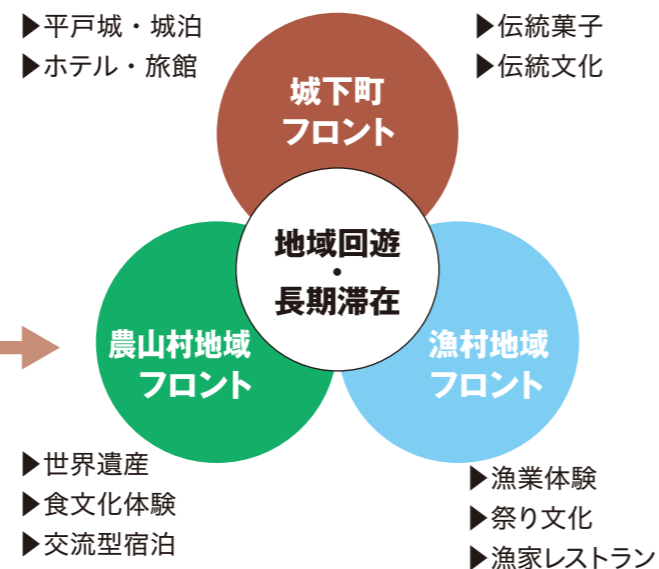
平戸市は、地域に散らばっている空き家を活用し地域一帯をホテルとするイタリア発祥の取り組み「アルベルゴ・ディフーズタウン」として認証されました。

アルベルゴ・ディフーズは、持続可能な農村ツーリズムの実現に向けた、新たな地域づくりの鍵。「地域まるごとホテルでおもてなし」で選ばれる観光地を目指します。

アルベルゴ・ディフーズ(イメージ)



平戸市アルベルゴ・ディフーズタウン(イメージ)



アルベルゴ・ディフーズ関連用語

- アルベルゴ・ディフーズ (AD:分散型ホテル = 地域まるごとホテル)
レセプション(受付)機能を持つ拠点を中心に、宿泊施設やレストランなどをネットワーク化する取り組み。
- オスピタリタ・ディフーザ (OD:分散されるおもてなし)
ADよりも広い範囲(レセプションからおおむね1キロメートル)となる地域が一体となり行う取り組み。
- アルベルゴ・ディフーズタウン(ADT:自治体への認証)
ADやODを計画・推進し、地域の持続的な発展を目指す地域を認証するもの。

アルベルゴ・ディフーズとは

アルベルゴ・ディフーズ(AD)では、構成する客室が地域の住民が住んでいる家の中にあり、以下の3つの条件を満たすことで、ゲストが一時的とはいえ地域の住民になったような気分を味わうことができます。

1 街並みを活かした宿泊体験

新たに建物を建てることなく、既存の施設を活用することで、村や歴史的な中心地をゆがめることなく、地域の観光を発展させることです。

2 施設同士のネットワーク化

複数の家屋をネットワーク化して作られる「ホテル」として、1棟はゲストが最初に訪れ鍵を受け取ったり、ホストとのコミュニケーションをとるレセプションとしての機能を、その他の家屋は宿泊するための客室となります。

3 ホテル同様のサービス提供

ADが一般的なホテルと同様に、すべてのゲストがルームクリーニングや朝食などのサービスを利用することができるということです。



提唱者
アルベルゴ・ディフーズ協会
会長 ジャンカルロ・ダッラーラ 氏

未活用資産を新たなビジネスへ

今後は、過去に実施した空き家調査をもとに、所有者への資産活用の意向調査を行い、空き家や未活用資産を活かした観光産業として、新たなビジネスへ展開。

また、地域住民との連携が不可欠なことから、「まちづくりワークショップ」や「講演会」などを通じて、魅力ある観光まちづくりに取り組みます。

